

令和元年 10 月 18 日（金）

## 第 67 回九州地区英語教育研究大会（沖縄県大会）参加報告書

大会テーマ 「グローバル化に対応した自律的英語運用能力の育成」

仲井真中学校英語科教諭 儀間新吾

### 1 日時

令和元年度 10 月 18 日（金） 8:30 ~ 16:15

10 月 19 日（土） 9:00 ~ 12:00

### 2 場所

1 日目 10 月 18 日（金）奥武山公園 沖縄県立武道館アリーナ棟

2 日目 10 月 19 日（土）沖縄県立那覇高等学校

### 3 参加講演及び公開授業

(1) 基調講演 10 月 18 日（金）

① 講師：安座間喜治 Yo Azama

カリフォルニア州立大学モンレーベイ校 World Language Method Instructor

ノースサリナス高校 Lead District Coach

② 演題 Shift Happens: Meeting the Needs of Learners in a complex World

③ 講演内容

20 年間でアメリカの言語学習は、生徒のコミュニケーション能力を育成することに重きが置かれている。生徒は、言語についての知識を多く習得することやネイティブスピーカーとどのようにコミュニケーションをとっていくのかを学ぶことが求められている。

	講演を通して学んだこと
1	どのように言語を使うのかを理解させる学習
2	学習者（生徒）が中心となり教師は学習者が思考を深めるために授業を工夫し進める
3	目標を意識した授業や学習カリキュラムづくり
4	現実性のある題材を用いて、使える言語能力を育成する
5	学習者（生徒）が、自ら考え、判断し、表現できる力を育成する
6	言語の背景にある文化も含めて言語学習をする
7	学習者（生徒）のニーズに応じた言語学習を展開する
8	言語を用いて、何ができるようになってほしいのかを示す
9	教師だけではなく、学習者（生徒）どうして思考し、学んでいく



安座間先生が実践している日本語教育を聞いて、学習者（生徒）が将来どの場面で、どのように言語を用いるのかを意識して教材を作成し、学習カリキュラムを立てていくことが重要であることがわかった。安座間先生がご指導している日本語学習者は、自ら考えて言語の使い方を学び、自分の考えを明確に話したり、書いたりして表現できているので、素晴らしい指導方法だと感じた。私自身も、安座間先生のように、学習者（生徒）が、いつどの場面で使用する表現かを意識して、英語の単語や表現、文法を学習していけるように工夫していこうと思った。短期間で言語能力は急激に向上するわけではないので、中学校 3 年間でどのように学習していくことが学習者（生徒）にとって最も効果的な学習方法かを模索しながら、教科指導にあっていこうと思う。同時に、同じ英語科教諭どうしても指導に関する情報を共有し合い、互いに指導力を高めていきたいと感じた。

(2) 公開授業Ⅰ(浦添市立浦城小学校6年3組)10月18日(金)

- ① 授業者: 眞喜志直子 浦添市立浦城小学校 共同研究者: 那覇地区小学校英語教育研究会
- ② 単元名・教材名 He is famous. She is great. 『We can! 2』Unit 2
- ③ 授業の様子



目標:好きなものやこと、欲しいもの、日頃することの表現について、語順がわかり、語順を意識して、文を書き写すことができる。  
授業の工夫:児童が語順を意識して文を作る際に、音声で十分慣れ親しんだ文の「主語」「動詞」「目的語」を色分けする。

④ 公開授業を通して学んだこと

眞喜志先生は、児童からの質問に対してすぐに教えるのではなく、児童がわかる英語で教えていくことを徹底していた。児童は、疑問に思ったことをわかる英語を通して思考しながら、理解しようと努めていた。そのような活動を通して、英語を通して、思考を深め、すぐにはわからなくてもねばり強く考えて理解する力が育まれることを学んだ。また、眞喜志先生は、学習している英語表現が、どの場面で使用するのかを丁寧に説明していた。そうすることで、児童は今学習している表現の使用場面を明確に理解でき、場に応じた適切な表現力が身につけていくことも学ぶことができた。私自身も、眞喜志先生のように、すぐに答えを生徒に教えるのではなく、まず思考させて、生徒がわかる英語で説明して理解させる環境を作っていきたいと思った。

(3) 公開授業Ⅱ(那覇市立松島中学校3年4組)10月18日(金)

- ① 授業者: 宮里 征吾
- ② 単元名 Program 7 What Is the Most Important Thing to You? SUNSHINE ENGLISH COURSE
- ③ 本時の目標

国際協力について、グループで意見を交換したことを基に、自分の考えを書くことができる。

④ 授業の工夫

評価発問を用いて、本当の意味での国際協力について深く考えさせ、自分ができること、したいことについて表現させる。

<目標達成までの授業ながれ>



⑤ 公開授業を通して学んだこと

宮里先生は、教科書を使って教科書の本文内容を理解させるのではなく、生徒たちの考えを発信する活動まで展開している取り組みが素晴らしかった。事実発問から本文内容を理解させ、推論発問から評価発問を通して、単元の目標の達成に向かう取り組みをぜひ私自身も実践していこうと思った。今後は、事実発問、推論発問、評価発問の発問内容を、教材研究を通して考え、生徒の思考がより深まる授業づくりに取り組んでいこうと思う。同時に、どの発問にどのぐらいの時間をかけるのか、1時間完結になるようなタイムマネジメントができるように、日々の授業実践を通して、研究を深めていきたい。今後も、宮里先生をはじめ多くの先生方から指導方法を学び、自分自身の指導力向上に取り組んでいく。

(4) 公開授業 3 (沖縄県立浦添高等学校 1 年 9 組) コミュニケーション英語 I 10 月 18 日 (金)

- ① 授業者: 池間 睦子
- ② 単元名 Lesson 5 “gr8 or great?” Revised LANDMARK English Communication I 啓林館
- ③ 本時の目標

- ・ Part 1 の新出語句の意味を理解し、正しく発音する。
- ・ Part 1 の本文を明瞭かつ適切な速さで音読する。
- ・ Part 1 の内容を理解し、それについてリテリングする。

④ 授業の工夫

ICT 機器の使用

<目標達成までの授業ながれ>



⑤ 公開授業を通して学んだこと

授業ではほとんど英語を用いていた。生徒のわかる英語で、指示や説明ができており、日頃から英語を使うことが徹底されているのがわかった。生徒が興味関心を持ち、学習に取り組めるように ICT を使用していた。英語に関する専門的な知識だけではなく、ICT を使いこなす技術も必要だと感じた。また、本時の学習に興味を持たせるために、生徒の身近な話題をもってきて、導入していたことも良かった。池間先生のように、私自身も ICT 機器を用いて、生徒が興味関心を持って学習できる環境を作っていこうと思う。

(5) 分科会 4A 10 月 19 日 (土)

テーマ: 表現力を高める指導

タイトル: 4 技能統合型の指導と評価の工夫

- ① 発表者: 田中 美樹 (宮崎県西都市立妻中学校)
- ② 発表内容

<実践している帯活動>

- ・ すらすら英会話【ローテーションして、ペアで対話する】
- ・ ワンミニットモノログ【1 分間スピーチを行い、発表した内容を記録 (英作) する】
- ・ ワードゲーム【4 人グループで活動 1 人がテレビに映し出された絵を英語で表現する】

<実践している単元のまとめの活動>

- ・ ジグソー法の手法を用いた言語活動【生徒 1 人 1 人に活動に対する責任感や主体性を育む】
- ・ スキット【既習表現を用いて、ペアで作成する】
- ・ リテリング【個人練習→ペア練習→グループ練習→全体発表】

<読み物資料を用いた活動>

- ・ 多読、速読トレーニング  
【ある程度の英文を読み、どのぐらいの時間で読めたかを記録をとる】  
【ある程度の英文や単元のまとめの感想を 2, 3 分で感想を書く】

<目標とテストと授業の一体化>を意識する>

- ・ 教師が生徒につけさせたい力 (目標) をイメージする。
- ・ 生徒とパフォーマンステストの内容・方法等を共有する。
- ・ パフォーマンステストに向けて授業で練習する。

### ③ 分科会 4A 発表を通して学んだこと

田中先生は、単元学習の導入前に生徒の実態をアンケートやレディネステストで見取り、どの力がまだ弱いのか、課題は何か、どの分野に課題があるのかを理解し、改善するための帯活動を、年間を通して、計画的に授業で実践されていて素晴らしいと感じた。帯活動では様々な種類の活動の中から生徒の実態改善に適切な活動を取り入れていることにも感動した。日頃の活動では満足せずに、常に生徒の様子や実態に応じて指導方法を変えていくので、生徒も着々と学力を高めることができる。私自身も田中先生のように、常に生徒の実態から目標達成するために何ができるのかを考えて、指導方法を工夫していこうと思った。そして、田中先生は一人ひとりの表現をほめて、伸ばすことも実践しており、学習意欲も高めることもできるので、本当に素晴らしい教師だと思った。

### (5) 分科会 4B 10月19日(土)

テーマ：表現力を高める指導

タイトル：3Qで発問力と読解力を付ける

① 発表者：勇 やよい（鹿児島県立大島高等学校）

② 発表内容

<実践している帯活動>

・帯活動（パターンプラクティス）

質問文の文構造に慣れるため、授業の始めに英語による簡単な質問文とその訳が載ったプリントを配布し、一斉に音読する。

・3Q 教科書の本文には答えが明示されていない推論発問2問、各Partで出題し、生徒が自ら再構成し答える活動を各Partで行う。



### ③ 分科会 4B 発表を通して学んだこと

勇先生の指導で素晴らしい点は、発問を通して読解力を身につけさせるだけではなく、表現力を高めることにもつなげていることである。特に、評価発問の内容を工夫して、生徒自身が自ら思考し、英文で表現する活動はぜひ私も実践していこうと思う。勇先生の英語の授業を拝見したが、先生自身が授業を楽しむ姿に印象を受けた。英語を学ぶことは楽しいことを日頃の授業で伝える勇先生の姿勢を学び、私自身も実践につなげていく。

### 4 九州地区英語教育研究大会を通して学んだことと今後の取組

今回、九州地区英語教育研究会が沖縄で開催され、各県・各地区の先生方の指導方法や小学校、高校で実践されている指導方法も学ぶことができ、大変貴重な経験をすることができた。那覇地区中学校英語教育研究会のサポートをいただき、参加できたことに心から感謝申し上げます。

この研究大会を通して、私は自分自身が今まで実践してきた指導方法を見つめ返すことができた。日々、教材研究に専念し、研究を重ねてきた各県の先生方の指導方法を見て、自分には足りないものに気づくことができた。私が今後すぐに徹底したいことは、学習指導要領が示す目標を達成するために、3年間を見通した丁寧な英語の指導計画を他の英語教諭とも話し合い、確実に目標を達成できるようにより良い計画を作り上げていこうと思う。各学年で習得すべき内容を確実に定着させるための指導にも取り組む。今後はより一層教材研究に専念し、1時間1時間の授業をふりかえり、よりよい授業づくりのために改善を積み重ね、自身の指導力向上につなげていこうと思う。